

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

AI時代にこそ求められる 「自ら考える力」を養うために

『アカデミック・スキルズ(第4版) —AI時代の知的技法入門—』

湯川武(名誉教授・横山千晶(法学部教授)・
近藤明彦(名誉教授)・佐藤望(元商学部教授) 編著
慶應義塾大学出版会／1320円
(2026年1月)



累計20万部のベスト&ロングセラーとなった『アカデミック・スキルズ』が、6年ぶりに大幅改訂された。ノートの取り方、情報の整理・発信といった学びの基礎を押さえた「第4版」最大の意義は新章「AI時代のアカデミック・スキルズ」の追加だ。著しく進化した生成AIの基本から、学習における有効な活用と注意点(リスク・マネジメント)まで詳細に解説している。AI時代にこそ求められる「自ら考える力」を養い、大学生としての「学びの基本」が身に付く必携の一冊。全ての塾生に手に取ってほしい。

教職員執筆の最新刊

●岩波敦子(理工学部教授) 編

『ことは紡ぎ出されるとき—声とテキストのあいだ—』
知泉書館／3850円(2026年1月)

●栗原聡(理工学部教授) 編著

『AIの倫理—人間との信頼関係を創れるか—』
角川新書／1078円(2026年1月)

●松尾弘(法務研究科教授) 著

『担保法改正を読む—譲渡担保・所有権留保新法の解説—』
慶應義塾大学出版会／2860円(2026年1月)

●細谷雄一(法学部教授) 著

『危機の三十年—冷戦後秩序はなぜ崩壊したか—』
新潮社／1925円(2026年2月)

●池田幸弘(名誉教授) 著

『自由・秩序・進歩—ハイエク『自由の条件』を読む—』
慶應義塾大学出版会／3960円(2026年2月)

●川本哲也(文学部准教授) 編著

『心理・教育のための統計学入門—』
慶應義塾大学出版会／2640円(2026年3月)

慶應義塾のこの一冊

『小説福沢諭吉伝—独立自尊の人—』

齋藤秀彦(横浜初等部教諭) 著
泉文堂／2970円(2026年3月)



明治日本を思想的に導いた福澤諭吉の波乱に満ちた生涯を教育者である著者ならではの視点で、主に年少者向けに小説形式で書いた一冊。蘭学修業から米国や欧州での体験、慶應義塾創設、『字問のすゝめ』執筆をはじめ晩年に至るまでの数々の挑戦を、独立自尊の精神を軸に生き生きと再現。理解を助ける人物相関図や年表、地図も付され、現代人にも響く福澤の人間像と志を鮮やかに浮かび上がらせ、大人が読んでも十分楽しめる伝記となっている。